

人事異動

<新任>

特別研究員 瀬川辰徳

(6月1日付)

編集 後記

ジェネレーティブ
AI(生成AI)
に関する研究開発

と利用法が話題となつていま
す。様々な場面で、Chat
GPTに代表される対話型生成
AIの活用機会が増えるに伴
い、偽情報拡散、情報漏洩、著
作権侵害、創造力への影響等が

懸念され、その開発・利用に對
する各種規制の検討が進められ
ています。

生成AIは、利用者の質問・
要求に対し、インプットされて
いる膨大な情報から、文章、画像、
音声などのコンテンツを生成す
るもので、自ら学習しその精度
を高めています。AIが人類の
知能を超える転換点、いわゆる
シンギュラリティ(Singularity)
の到来は、二〇四五年頃とされ
ていましたが、早まることが予
想されます。

過去の情報を基にすることか
ら、これまでに例を見ない創造
的、画期的コンテンツの生成は
まだ先かもしれませんが、現在
の仕事の多くの部分を代替する
可能性は高いのでしょうか。その

時、人間が担うものには、何が
あるのでしょうか。

コロナ禍で人との接触機会が
減り、在宅勤務やリモート会議
が行われましたが、充分な意思
疎通が図られていたとは思えま
せんでした。やはり対面による
五感を使った会話が、共感と新
たな発想をもたらすものである
と再認識させられました。心新
たに、人間同士の直接対話によ
るコミュニケーションを濃密か
つ広範にし、データ化できな
い、みえる化できないものの価
値に目を向け、分断と対立の進
む世界の修復に向けた新たな未
来への閃きを、自ら得ることが
大切なのではないのでしょうか。

(及川敏之)

「地域と農業」第130号

発行：一般社団法人 北海道地域農業研究所
〒060-0806
札幌市北区北6条西1丁目4番地2
ファーストプラザビル7階
☎ 011 (757) 0022
Fax 011 (757) 3111
HP : <https://www.chiikinouken.or.jp>
E-mail : office47@chiikinouken.or.jp